



平成 16年 4月 26日
オジロワシ野生復帰研究会

〔事業内容〕

1 前年度までに放鳥した個体の追跡調査

昨年度は、当研究会で傷病鳥として保護収容していたオオワシ3羽について、バックパック式(ハーネス型)発信機(電池寿命5年間)を装着し放鳥を実施した。

凍結餌の給餌訓練などを行った後で厳寒期の1月にはオオワシ1羽及び2月にオオワシ2羽の放鳥を実施し、その後のモニター調査を行ってきたところであるが、その結果1羽は再収用、1羽は北上し稚内方面で受信されているためサハリン方面に渡ったものと思われ、もう1羽は死体で収容されたことは前年度報告のとおりである。

今年度もこれ以前に放鳥した個体を含めて追跡調査を実施した。

受信追跡調査を行うに当たり、広範囲での追跡を行うために、2002年度の帯広市に続き、今年度も当野生動物保護募金助成金を活用して、新たに旭川市内に受信基地局を開設した。

また、近隣の無線愛好家に対して当事業への協力を要請しており、その結果毎年多くの受信情報が寄せられていることから、これら協力者を中心に最新の情報を提供することとしている。

本年度の追跡調査の結果、2001年10月に釧路市で放鳥した個体が、約2年間モニターできず行方が分からずにいたが、本年度(2003年)11月上旬に釧路から約40 km離れた厚岸湖で受信でき無事を確認した。その後この個体は釧路市に移動し、現在も釧路近郊で受信されている。

2002年5月に釧路で放鳥したオオワシは、3日間モニターしたあと行方が分からず現在も受信確認ができずにいる。

また、2002年8月に同じく釧路で放鳥したオジロワシは、約半年間モニターできずにいたが2003年3月に釧路からおよそ100 km離れた帯広市で受信され無事を確認された。

その後11月上旬から12月上旬には阿寒地方で確認されていたが、12月下旬からは再び釧路に戻っている事が確認されている。

- ・ 2001年10月9日に釧路で放鳥したオジロワシ幼鳥

放鳥後2年間行方がつかめなかったが、2003年11月上旬に厚岸湖で受信され、その後約40 km離れた釧路近郊で受信されており、無事を確認された。

発信機周波数 148.090MHz

- ・ 2002年5月22日に釧路で放鳥したオオワシ幼鳥

5月25日まで(3日間)放鳥地付近で受信されていたが、その後受信でき

ず。現在も不明。

発信機周波数 148.715MHz

・ 2002年8月31日に釧路で放鳥したオジロワシ幼鳥
9月2日までは、放鳥地の釧路市で受信確認できたが、その後受信できず不明であった。
その後、2003年3月に帯広市で受信されたものの、その後再び受信できずにいたが11月上旬になって阿寒町方面で受信され、12月下旬までその近郊で受信され、12月末からは、約50 km離れた釧路市付近で受信されている。

発信機周波数 148.811MHz

・ 2003年2月19日に厚岸湖で放鳥したオオワシ幼鳥
放鳥後4月上旬までは厚岸湖周辺で受信されていたが、4月中旬には帯広で受信され4月下旬には北海道北部の稚内地方で確認されたことと、その後モニターできていないことからサハリン方面に渡っていったものと考えられる。

4月下旬には複数の別のオオワシからの電波(※1)も同地付近で傍受できている事から、この時期には多くの個体が渡り行動に入っていたものと思われる。

なお、その後(2003年の冬季から2004年春にかけて)この個体は、北海道で受信はできていないことから、今シーズン北海道へ渡ってきているかどうかは不明である。

発信機周波数 149.412MHz

(※1日本とロシアの研究グループが毎年ロシアでオオワシの巣内雛に発信機を取り付け、日本への渡り行動を調査しており、当研究会も調査協力している。複数の電波はこれらのものである。)

〔図1 北海道東部の保護・放鳥場所〕



[閉じる]